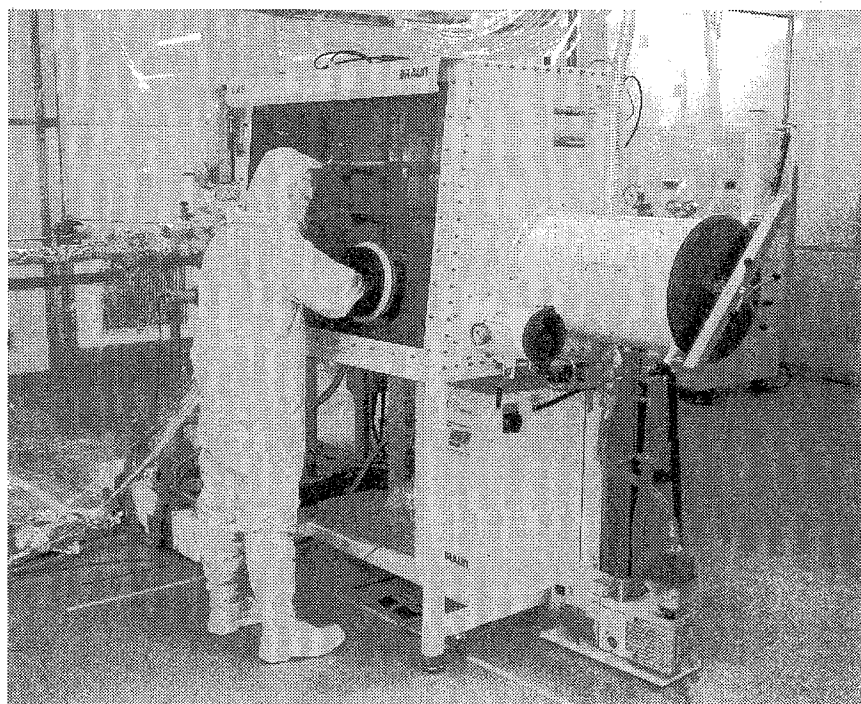


新たな技術交流拠点を目指す

「くまもと有機薄膜技術高度化支援センター」



有機薄膜研究に使うクリーンルーム

くまもと有機薄膜技術高度化支援センター(谷口功センター)長熊本産業技術センターのリニューアルに先立つ2月に発足した。研究開発ターゲットは有機系太陽電池や、有機エレクトロニクス(EL)などの有機エレクトロニクス分野。製造装置や材料、評価技術の事業化を目指している。そのため同センターは色素増感太陽電池や有機EL照明デバイスなどの試作や評価を行う機器を整えている。

くまもとの企業が既に保有していることが挙げられる。またフィルムを張る技術や、筐体(きょうたい)の放熱に関する技術を持つ企業もある。さらに地元大学には有機材料に関する基礎技術が多くある。熊本大には光取り出し用材料や拡散反射

材料、太陽電池用発電素子などの技術がある。また崇城大学は低コストな低分子有機EL材料開発を行っている。同センター整備には政府の支援策も活用している。2009年度と10年度には科学技術振興機構(JST)の「地域産学官共同研究拠点整備事業」に選ばれた。10年度は経済産業省の「中小企業等の研究開発力向上および実用化推進のための支援事業」にも採択されている。今後同国の研究開発プロジェクトによる資金獲得を目指すため、情報収集やプロジェクト提案に力を入れる。同センターの活動は熊本県内外の広範囲な産学連携が特徴

だ。運営は、熊本県、熊本大、熊本県工業連合会が構成する事業運営委員会と、地元メーカーも含んだ幅広い産学官でつくる経営企画委員会が行う。事業内容を評価する評価委員会には九州大、京都市大、九州工業大学の研究者らが委員に連なっている。

九州大との連携は既に始まっており、同センター発足と同時に九州大最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)と連携協定を結んだ。OPERAは九州大の研究者を中心とする有機エレクトロニクスの研究機関で、発光材料や材料塗布に関する技術を有している。また産業技術総合

研究所太陽光発電研究センター(茨城県つくば市)や、九州イノベーション創出促進協議会(KICC、福岡市博多区)、九州半導体イノベーション協議会(SIQ)とも連携している。熊本県、熊本大、熊本県工業連合会が構成する事業運営委員会と、地元メーカーも含んだ幅広い産学官でつくる経営企画委員会が行う。事業内容を評価する評価委員会には九州大、京都市大、九州工業大学の研究者らが委員に連なっている。

同センターは11年度に有機薄膜分野の材料、製造・評価装置に関する基礎的な開発に向けた活動に特に力を入れる。そのために産学官連携や人材育成に取り組む計画だ。産学官連携ではまず課題を抽出するとともに、企業の提案に合わせた研究開発テーマの設定が課題となる。具体的には経済環境や市場動向な

り、有機薄膜分野の人材育成も同センターの役割。若手研究人材を育成して地域企業への人材供給を可能にすることを目指す。また大学や企業から研究者を受け入れる体制も整える考え。具体的には09年度と10年度に実施した経済産業省の人材雇用育成事業を通じて確立した受け入れ態勢を維持するほか、科学研究費補助金のポストドクター制度を利用していく方針だ。講座や講演会の開催も人材育成の一環と位置付け、デバイスの試作や評価のための実践セミナーなど

多くの事業を計画している。具体的には発光材料や太陽電池素子、放熱筐体などに関する技術蓄積を挙げている。次の4年間は装置への応用期間。低コストデバイス設計や非真空成膜装置、防じん設計が実現すると予想する。この期間には同産業への20社の新規参入を見込む。残り3年間はアプリケーション開発や商品開発が本格化する拡大展開の期間と想定している。そして10年後には新規参入企業数50社、関連出荷額1000億円、雇用創出1000人が目標だ。

くまもと有機薄膜技術高度化支援センターと九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センターの連携協定締結式



くまもと有機薄膜技術高度化支援センターと九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センターの連携協定締結式

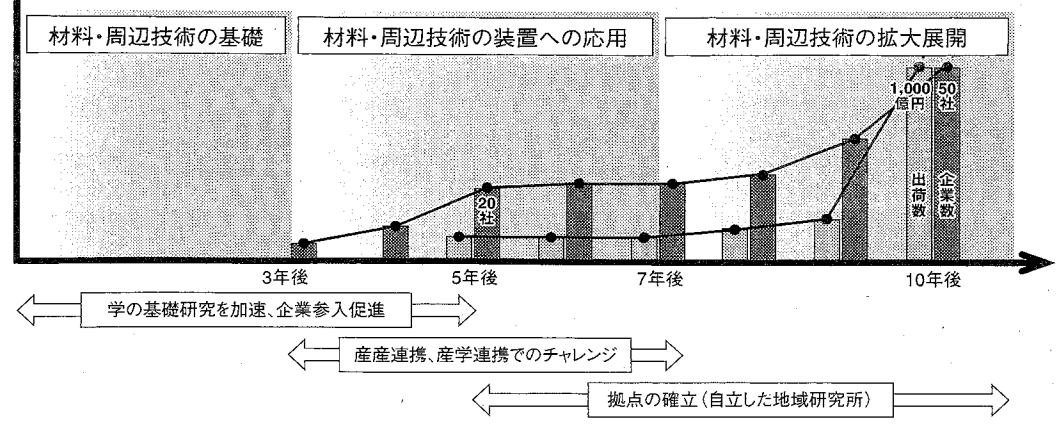
くまもと有機薄膜技術高度化支援センターと九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センターの連携協定締結式

人材育成にも注力

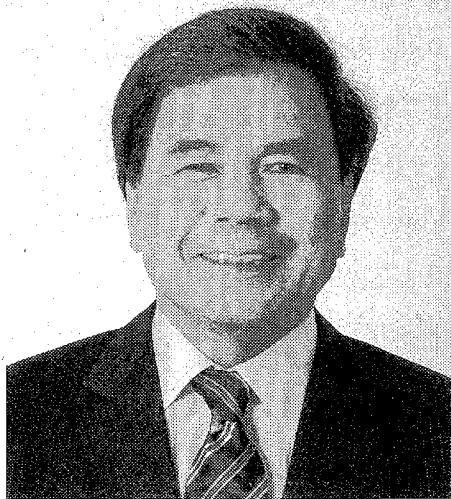
同センターは11年度に有機薄膜分野の材料、製造・評価装置に関する基礎的な開発に向けた活動に特に力を入れる。そのために産学官連携や人材育成に取り組む計画だ。

産学官連携ではまず課題を抽出するとともに、企業の提案に合わせた研究開発テーマの設定が課題となる。具体的には経済環境や市場動向な

事業計画概要



熊本県知事 蒲島郁夫氏



はじめに、去る11日に発生しました東北地方太平洋沖地震および、冥福を心からお祈り申

し上げますとともに、被災された皆さまにお見舞いを申し上げます。今後熊本県を挙げて最大限の支援活動を行って参りたいと考えております。

さて本県の産業支援の拠点となる「熊本県産業技術センター」が本日、リニューアルオープンしました。1922年に開設された工業試験場を前身とする当センターは、金属・

機械から食品加工まで幅広い分野の企業に新製品開発や試作、マーケティングなどさまざまな技術支援を行ってまいりました。地域産業のさらなる活性化や産学官連携の強化に向けた支援機能の充実を図る

た環境調和型施設の新築本館にはサテライトオフィスや技術相談室、産学行政交流室などのスペースが配備され、県民、企業に開かれた施設となっています。また産業界から寄せられた寄付金を活用して

謝を申し上げます。リニューアルに併せて科学技術振興機構(JST)の支援を受け、地域産業の新たなビジネスチャンスとして期待される有機薄膜技術の産学行政連携拠点となる「くまもと有

命指定都市移行など、大きな飛躍のチャンスを迎える熊本県では、新たに策定した「熊本産業振興ビジョン2011」に基づき、「選ばれる熊本」を実現するリーディング産業群の形成」の実現に向けた取り組みを進めています。生まれ変わった産業技術センターが、これまで以上に県民、企業の皆さんの厚い信頼を受け、本県の産業の活性化に大きな貢献をしています。

飛躍のチャンスを迎える

ため、3年をかけてリニューアルを進めてきたところで、太陽光発電システムや屋上緑化を取り入れ

研究開発に欠かせない最新の試験研究備品が整備されています。寄付をいただいた企業の皆さまにあらためて感

機薄膜技術高度化支援センターを併設しました。

九州新幹線の全線開業、来年の熊本市の政

業、来年の熊本市の政

業、来年の熊本市の政